

令和2年度 第1回芽室町環境審議会議事録

日 時 令和2年10月29日(木) 15時35分から17時10分

場 所 めむろ一ど2階セミナーホール(2号室)

○会議次第

1 開 会

藤野 元成 住民生活課長

2 会長あいさつ

貫田 正博 会長

3 報告事項

(1) 第5期芽室町総合計画(環境部門)の評価結果について

(2) 令和元年度環境調査結果について

4 審議事項

(1) 芽室町ごみ処理基本計画の概要について

5 その他

6 閉 会

藤野 元成 住民生活課長

○出席委員(敬称略)

貫田 正博	高井 宏司	竹澤 健三	砂金 新一	佐藤三千子
森住麻友美	村瀬 雅道	井上 貴明	塚本 元一	後藤 勝幸

○欠席委員(敬称略)

菊地 恵	遠藤 千絵	高橋 好明	大橋 裕一
------	-------	-------	-------

○傍聴人

0人

○町側出席者

藤野 元成 住民生活課長
齋藤 和也 住民生活課生活環境係長
植田 尚恵 住民生活課生活環境係主任

○会議要旨

報告事項

- (1) 第5期芽室町総合計画（環境部門）の評価結果について
齋藤係長から資料に基づき報告 質疑等なし
- (2) 令和元年度環境調査結果について
齋藤係長から資料に基づき報告 質疑等なし

審議事項

- (1) 芽室町ごみ処理基本計画の概要について
齋藤係長から資料に基づき報告 質疑なし
主に次の3点について委員への意見を聴取
 - ・自宅でのごみの量について（過去と比較したごみ排出量の状況）
 - ・色付き指定ごみ袋を使用している現在の負担感等
 - ・芽室町のごみ分別・収集状況について

【委員からの意見】

【委員】

令和元年度から町内会等に配付したカラス除けサークルをごみステーションで使用したところ、カラスによる被害が減った。簡易的で使いやすくとても良いと感じた。

資源ごみの分別は制度開始から長年行っているの、さほど負担感はない。ごみの減量化について、お店で商品を購入する際はなるべくトレイに入っていないものを選ぶようにしているが、店頭にはトレイや容器に入っているものが多い。減量化を進めるのであれば、町からスーパーや業者に余分な包装を減らすようお願いすることも必要。

また、委員への会議資料もデータでもらうと良いのではないかと（紙ごみが減らせる）。

【委員】

町外から転入して10年以上経った今、転入当初は、芽室町は水道料が高いと聞いており、高いお金をかけてごみ処理のために水を使う（容器を洗う）ことに抵抗感があった。でも、今は気にもならず洗って分別をしている。

色付きごみ袋は分別の種類が分かりやすく、子どもが小さかった頃、一緒に色を見て

分ける作業をしていた。家庭内のごみ量は、生活状況とともに変わっていると思う。現在、子どもが高校生になり、弁当を作るために冷凍食品を購入するなど、プラスチック容器の需要が増えた。給食の提供を受けていたころとは異なっている。

【委員】

ごみは減らないと思う。買うときにすでに過剰包装になっており、包装等がいらないうということもできない。店側もキズが付かないなど、出す側の意見も理解できる。

製造者側に訴えることは必要だと思うし、企業側もできるところは取り組んでもらうのが役割の1つだと思う。

自分自身の家庭ごみについて、洗うのはやはり大変だが分別作業は慣れれば問題ないと思う。また、色が付いているごみ袋は使い慣れてきていることもあるが便利だと感じている。同じ透明な袋なら、入れるものを間違える可能性もある。

ただ、燃やすごみ・燃やさないごみの袋は高いとは感じている。

くりりんセンターが新しくなると聞いているが、くりりんセンターを建設する費用は町が負担することになり、町が負担するということは住民が負担するということになる。どれだけの負担になるのかなど、町民にも知らせてほしいと思う。

→くりりんセンターの建設について

令和9年度の供用開始に向けて準備を進めているところ。昨年度から策定を進めている新中間処理施設基本構想について、今後住民説明会やパブリックコメントを実施する予定。住民説明会は芽室町内でも開催するので、参加いただければと思う。

【委員】

メーカー側の立場とすれば、買ってもらう商品を作ることが大前提であり、そのためには商品を守るための包装等は必要である。近年では、小さな袋のパッケージが好まれる傾向にあり、そうすると小さなサイズの商品を多く製品化するなど、ユーザーニーズに合わせた対応をするのが企業である。

ごみ減量化への取り組みは1町村で対応できるものではないと思う。過剰包装しないなどの声を様々な団体から国などへ上げてもらうなど、減量化に向けた啓蒙活動を行うことで社会の流れを作っていくことが重要と考える。

【委員】

ごみは減らないと思う。現在、施設の管理をしているが、フリースペースに置いておいたゴミ箱はとてもマナーが悪い。そう考えると、町民は、ごみの分別や排出に対する意識が低いと思っている。

【委員】

リサイクルのまちづくりは、とても良い考えだと思う。町内会連合会としては、資源物回収に力を入れているところであるが、令和元年度には町の助成金単価を引き上げていただいた。町内会加入者が減少している今、地域の運営資金としても役立っている。

資源回収は、自宅から出るごみを減らす取り組みにもなると考えることから、最終的にごみ減量化にもつながっていくものと考えている。

【意見に対するまとめ】

○ごみの減量化について

生活スタイルによってごみ排出量が変わるなどの要素があることや、メーカー・店舗などの包装等の現状などから、それぞれが取り組んでいるものの、自宅でのごみ減量化には限界があることが感じられた。また、メーカー側の努力や現在の社会状況など、製品とその後のごみの考え方に難しさがあることも理解できた。

○色付き指定ごみ袋について

委員の皆さんは、色付き指定ごみ袋導入時から分別等を行っていることもあるが、
①指定ごみ袋の色によって分別内容が分かるため、入れ間違いを防ぐことができる
②これまで分別の経験がない方でも、色を見て分別することができる（子どもにも理解しやすい）

などの理由から、色付き指定ごみ袋には肯定的であることが分かった。

しかし一方で、町外からの転入者が他自治体との分別の違い（袋を含む）に苦慮していることも声として聴いており、今後ごみ分別や色付き指定ごみ袋は検討課題としていく。

その他

特に委員からの意見等はなし。

< 17時10分 閉 会 >